

今年も卒業式シーズンとなりました。法学類月報第 17 号では、永江亘先生のご紹介、就職活動体験記、金沢法友会の手がける消費者教育プロジェクトの紹介、振津先生、青野先生の退職についてのお知らせをお届けします。



◆連載◆ 法学類の先生 第 15 回 永江亘先生（商法）

義理と人情と漢気をこよなく愛する広島出身で、カープとサンフレッチェのファンです（というか、当地ではそれ以外の選択肢は許されません）。が、この類の話題は（とりわけ阪神ファンとの間で）、しばしば論争を巻き起こしますので、一般にはニューヨークヤンキースとマンチェスターユナイテッドのファンということにしています。

学部生時代は、バンド活動に勤しみながら学生生活を過ごして参りまして、現在でも休み期間にはライブツアーに出たいという野望を持ち続けながら生活しております。そんな自分も、赴任してはや 4 年が経ちつつあり、ピチピチの 20 代だったのも 30 代半ばに差し掛かり、徐々にしかし確実にオジサン化の道を歩んでいることを実感します。

暖かい地域からきたこともあり、金沢を中心とした北陸の地域の気候・文化にはショックが大きく、浮いている自分を自覚する日々ですが、素晴らしい伝統文化に囲まれて、個人としては楽しい時間を過ごしております。

学問的には、企業買収を専門に研究して参りましたが、最近はその学問領域の知見をどのように法律に取り込んでいくのかに興味を持っています。

「好きな言葉」

私は「let it be」という言葉が好きです。

「あるがままに、あるがままを受け入れる」と言うと、必ずしも良い意味に捉えられないかもしれませんが、私はこのように考えることで、むしろ前に進める気がするのです。特に進路のことを決めるにあたっては、幾度となくこの言葉に背中を押してもらったような気がします。

大学 3 年生の時、周囲の友人達は就職活動や公務員試験の勉強に一生懸命取り組んでいました。一方私とは言う、自分が何をしたいのか分からず、進路について考えるのが本当に苦痛でした。「しっかりしろ、頑張り自分」と何度も言い聞かせたものの、むしろその度に不安が大きくなっ



ていきました。そこで、逆に今自分の置かれた状況をすべて受け入れることにしたのです。その結果、不安や焦りが消え、冷静に自分を見つめることができるようになりました。例え周囲からモラトリアムと非難されようとも、大学院に進み自分のやりたいことを追い求めようとの決意がつき、この度、大学院での2年間を経て自分の納得がいく仕事に就くことができました。

ヘレン・ケラーはこのように言っています。「When one door of happiness closes, another opens. But often we look so long at the closed door that we can't see the one which has been opened for us.」

私は「let it be」という言葉のおかげで、その扉を見つけることができたようです。

法学・政治学専攻（博士前期課程）2年 西門純平（法務省入国管理局に内定）

公認サークル 活動報告

金沢法友会（消費者教育プロジェクト）

消費者教育プロジェクトは、金沢法友会が本年度新たに立ち上げたプロジェクトで、法学を学ぶ学生の立場から消費者問題について学ぶとともに、学生・一般市民の皆さんにも消費者問題に理解を深めてもらうためにセミナー等を企画しています。このほど、金沢市の「『学都金沢』地域づくり活動支援事業」の助成を受け、NPO 法人消費者支援ネットワークいしかわのご協力を得て、「訪問販売」をテーマとする「消費者問題 寸劇&セミナー」を開催しました。



かねてより練習してきた寸劇は、演技・シナリオともに、お褒めの言葉・ご指摘の言葉をいただき、さらに磨きをかけていきたいと思います。また、セミナーでは、クーリング・オフの制度と、消費者被害に遭わないための心構えについてプレゼンをした後、ご参加いただいた方々とともに、実体験もふまえながら消費者問題について考えました。単に消費者被害に遭わないための知識をつけるだけでなく、消費者ひとりひとりの声を聞き、消費者問題に直接触れることが必要であると強く感じました。

誰もが消費者である今日、消費者問題はすべての皆さんに関わりがあります。来年度以降、金沢法友会あるいは金沢大学内部に止まらず、外部との連携をいっそう深めて、活動を活発化させたいと思います。

金沢法友会消費者教育プロジェクト 法学類2年 水谷優希 村田光

【お知らせ】教員の退職について



法科大学院の振津隆行先生、大学教育開発・支援センターの青野透先生は、3月31日付で金沢大学を退職されます。振津先生は、1984年に法学部に着任以来、2004年に法科大学院に移籍された後も、法学部・法学類で刑法・刑法演習をご担当頂きました。青野先生は、教養部の廃止により、1996年に法学部に移籍されて以来、2003年に大学教育開発・支援センターに移籍された後も、法思想史・法思想史演習をご担当頂きました。両先生に感謝申し上げますとともに、今後のご活躍をお祈りします。



- 法学類の学生、卒業生、教員に関係するイベント等の情報を、ぜひお寄せください。
- 関係者の皆様のご寄稿を歓迎します。採用された方には、法学類グッズを進呈します。
- 本誌のバックナンバーは、法学類HP (<http://www.law.kanazawa-u.ac.jp/home/geppo>)に掲載していますのでご覧ください。
また、メールでの定期配信（無料）をご希望の方は、金沢大学人間社会系事務部学生課 法・経済学務係 (n-hkgaku@adm.kanazawa-u.ac.jp)までお申し込みください。
- お読みになつてのご意見ご感想は、上記メールアドレスまでお寄せください。